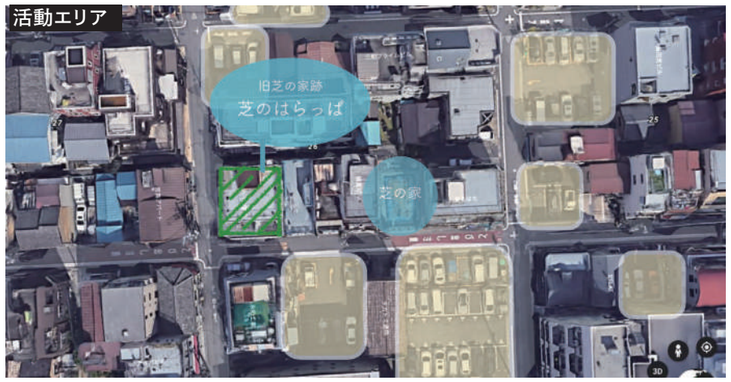
地域・コミュニティ活動助成

北四国町会　芝のはらっぱ実行委員会

東京都港区

地域住民が行う緑と花を通じた野外交流拠点「芝のはらっぱ」づくりとその運営活動

遊休空き地を活用した「芝のはらっぱ」全景



対象範囲は、東京都港区芝地区の東京タワーや慶應義塾大学の三田キャンパス、そして芝公園が近くにある低層住宅が残る一角にある空き地、約164m²。都心にありながら近隣はコインパーキング（上図の黄色部分）が多くなってきている

団体設立経緯

東京都港区と慶應義塾大学が協働で運営するコミュニティづくりの活動拠点である「**芝の家**」の旧拠点跡地について、土地の持ち主の理解もあり当該エリアの町会である**北四国町会**に芝の家が協力し、まちの交流を豊かにする実験の場として活用することとなりました。活動を進めるにあたり運営組織が必要となり、北四国町会の中に「**芝のはらっぱ実行委員会**」を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

遊休空地を活用した「まちの庭」づくり。草のはらっぱ、菜園や花壇といった土いじりができる場をベースとし、憩いの場や遊び場、さらにはコミュニティ菜園とコンポスト、防災かまどで火をたき調理するなど、さまざまなイベント開催の可能性を模索していきます。

活動に至った理由や背景

北四国町会は、一帯を含むまちの再開発計画の中で空き地がコインパーキングになってしまう悩みを抱えていました。再開発後に生かせる「コミュニティ活性」、「人と人との交流の場づくり」の実験の場としての活用を検討しましたが、町会役員の高齢化もあり担い手不足が顕著でした。そこで、当該土地が旧拠点の跡地でもある「芝の家」のスタッフや、ご近所イノベーション学校（港区芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で運営する地域事業）の修了生ら、地域の仲間が加わり活動が始まりました。

活動内容と成果

●コミュニティ菜園の作成

2020年度より計画していたコミュニティ菜園は実際に作成が完了し、季節に応じてさまざまな野菜や果物を収穫しています。例えば、夏にはトマトやバジル、しそなどのハーブ、そして冬にはスナックエンドウなどを育て、地域の子どもたちと共に見守りながら進めています。

こうした菜園や花の手入れは、年間を通して月2回ペースで実施してきました。手入れの日は広報をし、参加者を募ってイベント的に開催。最初は「メンテナンスデー」と呼び、そのほかの作業も含めていましたが、1月からは「**庭しごとデイ**」と特化したイベントタイトルをつけ、緑や花の手入れに加え、コミュニティコンポスト＝生ゴミ堆肥づくりも本格的にスタートしました。来場する人の注目を集め、出だしは好調です。

3月には「コンポストってなあに?」、「夏野菜、何育てる?」とテーマを掲げ、集まった10人ほどで、みんなでどんな野菜を育てていくかを意見を出し合い決めました。

1. 地域の子どもが芝生に水やり
2. 月2回ペースで菜園を手入れ
3. コンポスト用に枯葉を混ぜて堆肥づくり
4. 木製のベンチとテーブルでミーティング

●コミュニティコンポストの運用開始

都心におけるコンポストがコミュニティの活性化の一助となるよう、有識者を招いて22年1月より試作を始めたところです。

来年度も継続して有識者に月1～2回来訪していただき、アドバイスをもらいながら有機肥料での土づくり・野菜づくりを進めていく予定です。コミュニティ活性化の方法として検討しているのは、定期的な手入れ「庭しごとデイ」での実地での交流に加え、「はらっぱやさい部（仮称）」といったサークル活動を立ち上げ、SNS（LINE）を通じたコンポストや野菜づくりの情報交換の場も盛り上げ、継続的に近隣の皆さんの交流の場を育んでいく予定です。

四季折々の草花や、都会での野菜づくりやコミュニティコンポスト（堆肥ステーション）をきっかけに、芝のはらっぱへ足を運ぶきっかけをつくり、「芝のはらっぱのコミュニティ菜園＆コンポスト」を地域に浸透させていければと思います。

●ワークショップ開催時に使用するイス・テーブルなどの製作

製作は、東日本大震災をきっかけに創業した家具工房「**石巻工房**」に依頼しました。近隣地域にある「SHIBAURA HOUSE」（港区芝浦3-15-4）というコミュニティスペースの企画、「オープンファーニチャー」からの流れです。屋外にベンチなどの家具を設置することで座れる場を生み出し、人が立ちどまり、憩い、会話が生まれることを意図したその活動の一環で、芝の家界隈にはベンチが5～6カ所すでに設置、愛用されていました。

そのベンチを製作したのが石巻工房だったのです。今回芝のはらっぱでも、それらのベンチの仲間として家具を用意したいと考えました。本助成金をいただくことができ、その夢が実現しました。

大きさなどデザインは、「芝のはらっぱの活動の目的やスペースにふ

毎週土曜日の午後を中心に、さまざまなイベントやワークショップを開催。会報（左）やチラシで地域に告知する

さわしいものは何か?」を実行委員会で何度も検討し、定番商品に加え特注デザインのベンチもお願いしました。ベンチ4本、テーブル1脚がそろい、憩える場としての「芝のはらっぱ」が完成しました。

また家具到着時には、それ自体をイベントとして大勢の仲間で見守りました。石巻からのトラックを迎え積荷を下ろし、「オープンファーニチャー」のロゴマークを焼印し、設置というその瞬間を多くの仲間で共有。芝のはらっぱ完成という大きな節目を迎えることができました。

●住民参加型での継続的な運営の仕組みづくり

実行委員会を軸に、後述するイベントや日常のオープン、そしてメンテナンスを通して、住民の参加を積極的に促すことができました。

【活動にかかわった協力団体、行政、住民、専門家など】

全体計画については、北四国町会内に立ち上げた芝のはらっぱ実行委員会で議論を重ねながら、**東京都市大学未来都市研究機構**の協力を得ました。具体的には、他地域の取り組み事例の紹介や、21年3月に実施した町内住民向けアンケートの結果をベースにした全体の方向性へのアドバイスなどをもらいながら進めて行きました。

空間づくりでは、ランドスケープデザインを得意とする**株式会社フォルク**が設計を担当しました。実際の造園などは**武田屋作庭店**に、屋根つきデッキ製作や果樹など苗木の調達も含めご尽力いただきました。また土づくり、外周の舗装や柵づくり、苗木の移植などもすべて先導していただきながら、地域住民参加型でつくることができました。

さらに、テレビ製作会社**ルーカス**の石井圭氏が、活動の記録撮影を担当。編集までしていただきました。イス・テーブルの製作は、前述の通り**石巻工房**に依頼しました。また、コミュニティコンポストについては、有識者として「土から野菜をつくり、また土へ、コンポストは暮らしの食循環です」をモットーに活動する、**LFCコンポスト**の土屋奈央氏を迎え開始することができました。

【イベント、セミナー、ワークショップなど】

イベントとしては、7月に「音あそび実験室」、11月に「燻製の会」を開催。そして町会も参加する、芝の家周年記念のまつり「いろはにほへっと芝まつり」に一員として参加しました。

「音あそび実験室」は、もともと芝の家で開催されていたイベントですが、屋外である芝のはらっぱを活用した良い例になりました。「燻製の会」はアウトドア活動、そして燻製の達人たちによるイベントで、外部からグループを受け入れた開催でした。イベントの開催にとても慣れており、開催までの段取りなど、今後の参考になりました。また、「いろはにほへっと芝まつり」に参加できたことは、芝のはらっぱが地域に溶け込むことができた良い機会でした。

21年度の後半は、防災を特に意識しながら「火を起こそう!」、「結んでみよう!」、「今どきの防災食」、「災害時のトイレ、どうする」といった各種の防災講座を開催しました。「火を起こそう!」では、火を起こすこと自体の難しさを学びながら、火を活用してさまざまな食材を焼いて食べるという楽しみもありました。「結んでみよう!」では、区内のボーイスカウトから講師を招いてロープワークを学び、ブルーシートと棒2本で簡易テントを建てる体験をしました。

防災食やトイレについては、災害時に直面する一番大きな問題として、実際に簡易トイレを使用してみるなど、情報交換を通じて改めて意識する良い機会となりました。

一般の方々へのオープン日を月に7～8回、土曜日の午後を中心として、特にイベントなどを開催せずに毎月継続しました。それによりさまざまな要望や意見を聞くことができ、平日の日中や夜のオープンも試行しながら、徐々にオープンする時間を増やしてきました。緊急事態宣言が出ていた7月12日から9月30日の間はお休みしました。

芝のはらっぱの特徴として、さまざまな植物や屋外の家具などがあることから、定期的なメンテナンスが必要になることが挙げられます。季節ごとの植物の植え替えや草抜き、掲示板などの修理・製作を実施し、継続的な活用が可能となるようにしています。その作業を参加型とし、地域住民の手で「まちの庭」を育てていくことを何より大事にして行きたいと考えています。

課題と解決方策

芝のはらっぱ実行委員会は、前述の通り当該エリアの町会である北四国町会の一部でありながら、当該エリアには居住していないメンバーが大半です。そこで、近隣住民の方々を巻き込むことができるよう、イベントの開催告知を町会の掲示板に張り出すなどして積極的に勧誘しました。また、日々の水やりなどへの参加を通しても、この活動に関係する近隣住民の方々を増やすことができました。

町会の一部でありながら、今年度はまだ組織としての交流はあまりできませんでした。今後は町会の役員の方々を交え共同でイベントを開催しながら、より地域に密着した活動の場となることを目指しています。若い世代については、既にある程度の大学生などが継続的に参加し多世代交流のハブにもなっているので、今後もより活発になるよう工夫をして行きたいです。

今後の予定

1年半前はがれきが転がる土の地面だった芝のはらっぱにも植物が育ちはじめ、さまざまな生き物にも出会える場となってきました。この1年、自然環境がもたらす豊かな世界をこの小さな都会の土地でも感じることができる、そんな実感がありました。今後も小さな庭を育むことで、まちの日常を豊かにする小さな提案を発信していければと思います。

具体的には、通常のオープン日を軸に、防災や環境を意識したアウトドア体験のイベントなどの開催、野菜づくりや生ゴミコンポスト堆肥づくりなど年間を通しての継続的な活動、そして四季折々の庭の手入れや設備の修繕といった日常のメンテナンスをしながら、地域の交流拠点として浸透していけるよう、活動を継続していきます。

北四国町会　芝のはらっぱ実行委員会

2020年3月設立／メンバー数：27人／代表者：杉山 光敬（すぎやま・みつひろ）
●〒105-0014　東京都港区芝3-26-8　芝の家内
☎03-3453-0474（加藤 亮子）　✉contact@shibanoharappa.tokyo
www.shibanoharappa.tokyo
www.facebook.com/shibanoharappa2020/

私たちは、東京都港区芝の北四国町会の中央に位置する遊休空地の利活用に取り組んでいます。地域住民が参加しながら、緑と花を通じた地域交流拠点をつくっていく過程を先導します。